

絵本だ〜い好き

-3・4・5歳の絵本-



坂戸市立図書館

絵本だ〜い好き！

— 3・4・5歳の絵本—

たくさんの絵本の中からどんなものを選ぶかというのはとてもむずかしいものです。それは、「大人からみてよい絵本」ではなく、「子どもにとってよい絵本」をさがさなければならぬからです。子どもは、絵本の中のできごとを、まるで自分がそこにいるように、喜んだり、悲しんだり、驚いたりしながら聞いています。そして、心にふれた絵本を、何度も繰り返して読んでもらいたがるのです。絵本の中で出会った美しい言葉やリズムカルな文章、力強い絵などを、子どもはいつまでも覚えていきます。また、そこに込められたメッセージから、やさしさ、おもいやり、ユーモアなどを受け取っているのです。

子ども時代は短いものです。どうぞお子さんと一緒に、絵本やおはなしをたっぷり楽しんでください。大好きなお母さん、お父さんから本を読んでもらった幸せを、子どもは一生涯忘れないでしょう。

— 3歳児向け —

1. あおくんときいろちゃん . . . 8
2. うしろにいるのだあれ
3. おおきなかぶ
4. おでかけのまえに . . . 9
5. おべんとう
6. おむすびころりん
7. ぐりとぐら . . . 10
8. くれよんのくろくん
9. コッケモーモー！
10. 14ひきのあさごはん . . . 11
11. どうぞのいす
12. どしゃぶり
13. とりかえっこ . . . 12
14. どろだんご
15. なにをたべてきたの？
16. はなをくんくん . . . 13
17. ピン・ポン・バス
18. もりのなか
19. ゆきのひのころわん . . . 14
20. ルラルさんのにわ

— 4歳児向け —

1. あめのひのえんそく . . . 16
2. おだんごぱん
3. おまたせクッキー
4. からすのパンやさん . . . 17
5. キャベツくん
6. ぎょうれつぎょうれつ
7. 3びきのくま . . . 18
8. 11ぴきのねこ
9. せんたくかあちゃん
10. だるまちゃんとてんぐちゃん . . . 19
11. ちいさなヒッポ
12. てぶくろ
13. どろんこハリー . . . 20
14. にゃーご
15. ねずみのすもう
16. ハンダのびっくりプレゼント . . . 21
17. ぼくはあるいたまっすぐまっすぐ
18. まあちゃんのながいかみ
19. ラチとらいおん . . . 22
20. わゴムはどのくらいのびるかしら？

— 5歳児向け —

1. あめふりあっくん . . . 24
2. うんちしたのはだれよ！
3. 王さまと九人のきょうだい
4. おおかみと七ひきのこやぎ . . . 25
5. おおきなきがほしい
6. おちやのじかんにきたとら
7. お月さまってどんなあじ？ . . . 26
8. おへそのひみつ
9. かいじゅうたちのいるところ
10. かにむかし . . . 27
11. きょうはみんなでクマがりだ
12. くんちゃんのだいりょこう
13. こすずめのぼうけん . . . 28
14. これはのみのぴこ
15. ともだちや
16. はじめてのおつかい . . . 29
17. ピーターのいす
18. ひとまねこざる
19. ももたろう . . . 30
20. ロッタちゃんとしてんしゃ

3歳からの絵本

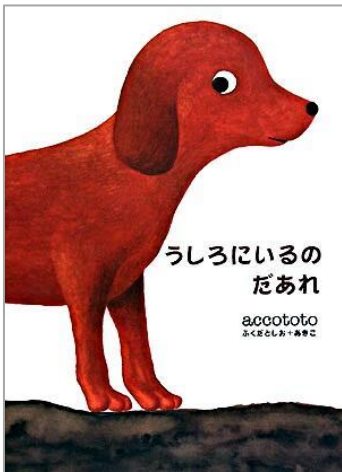
3歳くらいになると、子どもの世界は急に広がります。見るもの、聞くものすべてが新しい発見で、なんでもためしてみたくてたまりません。子どもの心の中で、小さな冒険が始まっているのです。そして、驚いたり、喜んだり、悲しんだりしながら、もう絵本を味わうことができるのです。まだまだ、字は読めなくていいのです。読めない時にこそ、お話を聞く力が育っているのですから。

あおくんときいろちゃん



レオ・レオーニ／作 藤田 圭雄／訳 至光社
あおくんときいろちゃんは、お隣どうしの仲良し。ある日、あおくんはきいろちゃんと遊びたくなって家を抜け出します。やっと出会ったきいろちゃんとうれしくて抱き合くと、みどりになってしまいます。ストーリーの中を生き生きと動きまわり絵本ならではの楽しさです。

うしろにいるのだあれ



accototo／著 幻冬舎
「ぼくのうしろにいるのだあれ。あっ、かめくん。かめくんのうしろにいるのだあれ…。」絵に描かれているヒントを見て、動物の名前を当ててみましょう！ページをめくるたびに次々と動物たちが登場します。くり返し読みたくなる、親子で楽しめる遊び絵本です。

おおきなかぶ —ロシアの昔話—

A・トルストイ／再話 内田 莉莎子／訳

佐藤 忠良／画 福音館書店



おじいさんが植えたかぶが、大きくなりひとりでは抜けません。おばあさん、孫、犬、猫と次々に呼んできて「うんとこしょどっこいしょ」とひっぱります。「うんとこしょどっこいしょ」のリズミカルな言葉のくり返しが楽しい、何回でも読みたくなる絵本です。

おでかけのまえに



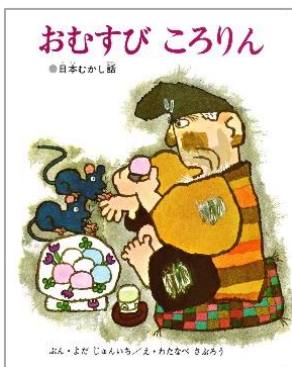
筒井 頼子／さく 林 明子／え 福音館書店
今日はピクニックへ行く日です。おでかけが待ちきれないあやこは、お母さんのかわりにお弁当をつめたり、お父さんのバッグを閉めるお手伝いをします。そして鏡の前ではお母さんの口紅を持って…。小さい女の子のはずむ気持ちが、ページをめくるたびに伝わります。

おべんとう



小西 英子／さく 福音館書店
おべんとうばこを用意して、最初に入れるのは炊き立てのごはん。次にミートボール、たまごやき、ウィンナー…。最後にデザートを入れたらおいしそうなおべんとうのできあがり。読み終わると親子でおべんとうを作り、食べたくなることでしょう。

おむすびころりん



よだ じゅんいち／ぶん
わたなべ さぶろう／え 偕成社
働き者のおじいさんは、食べようとしていたおむすびを穴の中へ落してしまいました。すると、穴の中から「おむすびころりん すっとんとん」と、ネズミたちの歌声が聞こえてきます。軽快で心地よいくり返しの言葉を楽しめる、日本の昔ばなしです。

ぐりとぐら

中川 李枝子／さく 大村 百合子／え

福音館書店



のねずみのぐりとぐらは、森の中でおおきなたまごを見つけます。何をつくろうかな、と迷いながらたまごを持って帰って料理をする二人。そのにおいにつられて、他の動物たちもやってきます。いったい、何ができあがるのでしょうか。

くれよんのくろくん

なかや みわ／さく・え 童心社



箱にはいった新品のくれよんたちは、ある日箱を飛びだし画用紙に落書きを始めます。くろくんは、絵を黒くしてしまうからと仲間外れにされてしまいます。しかし次第にくれよんたちの描いた絵はぐしゃぐしゃに…。くろくんはいったいどうするのでしょうか。

コッケモーモー！

ジュリエット・ダラス＝コンテ／文アリソン・バートレット／絵

たなか あきこ／訳徳間書店



いくらがんばっても鳴き声が思い出せないおんどり。口から出てきたのは「コッケモーモー！」いろいろな動物に会っても思い出せないままのおんどりですが、その夜、小屋の外から何かあやしい物音がしてきて…。一緒に声を出したくなるような絵本です。

14 ひきのあさごはん



いわむら かずお/作 童心社

おとうさんにおかあさん、おじいちゃんとおばあちゃん、そして個性豊かな10匹の兄弟ねずみの大家族。朝起きて野いちごを摘みにいったり、みんなで朝ご飯の準備をします。ねずみたちと一緒に楽しい気持ちになれる絵本です。

どうぞのいす

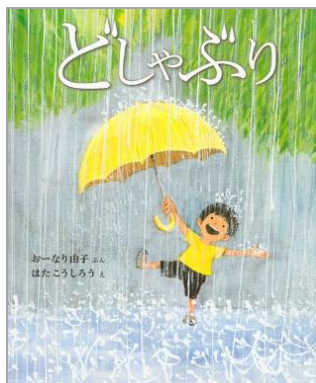


香山 美子/作 柿本 幸造/絵

ひさかたチャイルド

丘の木の近くに置かれた「どうぞのいす」は、うさぎさんの作った特製のいす。近くを通りかかったろばさんは、持っていたどんぐりを「どうぞのいす」に置いて木かげで一休みします。するとそこに、はちみつを持ったくまさんが…？

どしゃぶり



おーなり 由子/ぶん はた こうしろう/え

講談社

夏の暑い日差しの中、外に出たら真っ黒な雲が…。空を見上げていると、ぽつぽつ、ばらばらばらっ、と雨が降ってきてたくさんの音を立てます。勢いよく空から降ってくる雨をリズムカルに表現し、今にも絵本の中から聞こえてきそうな迫力のある一冊です。

とりかえっこ

さとう わきこ／作 二俣 英五郎／絵

ポプラ社

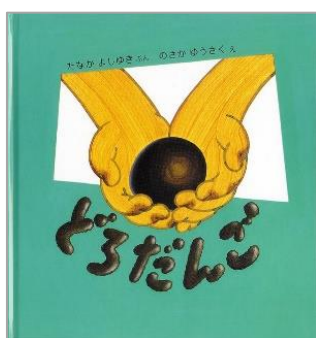


遊びにでかけたひよこは、出会った動物たちと鳴き声をと
りかえっこします。ねずみさんととりかえっこして「ちゅ
うちゅう」、その後もいろいろな動物ととりかえっこしま
すが、ねこさんが「にゃあう、たべちゃうぞ」とおそって
きた時、出た鳴き声は…。

どろだんご

たなか よしゆき／ぶん

のさか ゆうさく／え 福音館書店



泥団子を作るために、水をざぱーっ、どろをにぎにぎ、
ぎゅっぎゅ。ひびが入っても水につけてみれば…。みん
なで作ったどろだんご、どうやって遊ぼうかな。読んで
楽しむだけでなく実際に作って遊ぶ方法もわかる科学絵
本です。

なにをたべてきたの？

岸田 衿子／文 長野 博一／絵

佼成出版社



おなかがすいたしろぶたくんは、歩いているうちに見つ
けた食べ物を食べていきます。あれ、なんだかおなかに
模様が…。すれ違うほかのぶたたちも、いつもと違うし
ろぶたくんに気づいて声をかけます。さて、いったい何
をたべてきたのでしょうか？

はなをくんくん

ルース・クラウド／ぶん マーク・シーモント／え
きじま はじめ／やく 福音館書店



雪の降る森で冬眠していた動物たちが目を覚ましました。目を覚ました動物たちが一斉に走りだしたその先には、いったい何があるのでしょうか。動物たちの待ちわびた春への喜びが、優しいタッチの絵と軽快な言葉によってうたいあげられています。

ピン・ポン・バス



竹下 文子／作 鈴木 まもる／絵 偕成社
駅前バス停から、バスが発車しました。「おりるかたはボタンをおして おしらせください。」「ピンポン」と鳴るとバスは止まります。学校の前や病院の前などから、いろいろな人が乗り降りしていきます。乗客の気分になって楽しむことのできる絵本です。

もりのなか



マリー・ホール・エッツ／ぶん・え
まさき るりこ／やく 福音館書店

ぼくは、森へさんぽに出かけました。すると、動物たちがぼくのあとをついてきました。一緒におやつを食べたり、ゲームをしたり、かくれんぼをしたり、森の中で動物たちと楽しい時間を過ごしました。絵は黒一色ですが、森の中の世界へ引き込まれる絵本です。

ゆきのひのころわん

間所 ひさこ／作 黒井 健／絵

ひさかたチャイルド



雪の日に、ころわんが雪の中をお散歩していると、雪の中に手袋を見つけました。この手袋をどうやって届けるのでしょうか。ぶじに届けることができるのでしょうか。柔らかい色調の絵でほっこり優しい気持ちになることのできる絵本です。シリーズもあります。

ルラルさんのにわ

いとう ひろし／作 ポプラ社



ルラルさんは、毎日庭の手入れをします。自慢の大切な庭なので、どんなものが入ってきても許しません。ところがある朝、その庭に大きな丸太が転がっていて、ルラルさんは一緒に寝そべることに…。初めて庭に寝そべったときの気持ちよさが伝わってきます。



4歳からの絵本

4歳くらいの子どもは、一段と行動力が増し興味の対象もぐんと広がって、好みもはっきりとしてくるようです。

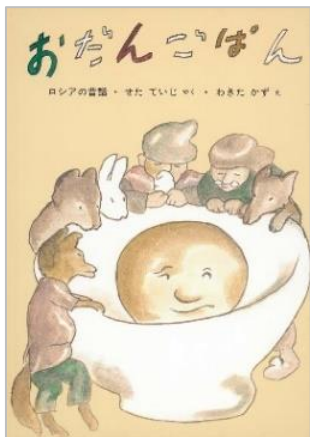
虫が好き、怪獣が好き、車が好き・・・というように、子どもによっては、好みの絵本もはっきり出てきます。ですから、このリストに載っているものをすべて読む必要はありません。好きな絵本を繰り返し読むことは、その子にとって、とても大切なことなのです。

あめのひのえんそく



間瀬 なおかた／作・絵 ひさかたチャイルド
今日は楽しみにしていたぶどう狩り遠足。朝から雨が降っていますが、バスがトンネルを抜けるたびに景色が変わり、バス旅行の楽しさを伝えています。最後のトンネルを抜けると、雨があがり大きな虹がかかりました。乗り物好きのお子さんでなくても楽しめる「しかけ絵本」です。

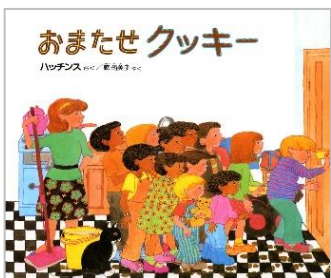
おだんごぱん —ロシアの昔話—



せた ていじ／やく わきた かず／え
福音館書店

おばあさんが粉箱の底をごしごしひっかいて、やっと作ったおだんごぱん。ころころところがっておばあさんから逃げだします。うさぎ、おおかみ、くまに食べられそうになるけれど、歌をわたって逃げ出しますが…。リズムカルな歌のくり返しが、お話を盛り上げます。

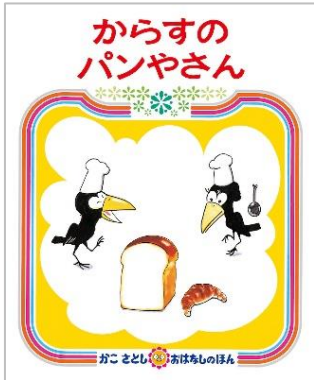
おまたせクッキー 友だちとたのしいおやつ！



パット＝ハッチンス／さく 乾 侑美子／やく 偕成社
おかあさんの焼いたクッキーを食べようとするビクトリアとサム。おばあちゃんの焼くクッキーにそっくりと思っていると、ベルが鳴ってともだちやいところがひとりふたりとやってきます。いつになったらクッキーを食べられるのでしょうか？

からすのパンやさん

かこ さとし／作・絵 偕成社



いずみが森のからすのパンやさんに4羽の赤ちゃんがうまれました。こどもたちの意見を取り入れて家族みんなで作ったパンは、大評判です。おもしろくてたのしい形のパンが見開きページいっぱい載っていて、見飽きることはないでしょう。どのパンが好きですか。

キャベツくん

長 新太／文・絵 文研出版



おなかをすかせた動物たちが、もしキャベツくんを食べたなら…。ブタヤマさんの「ブキャ」の声とともに空に浮かびあがる、キャベツを食べた動物たち。大人は「何だこれ?」と思うことでも、子どもはストレートに楽しめます。

ぎょうれつぎょうれつ

マリサビーナ・ルツソ／絵と文

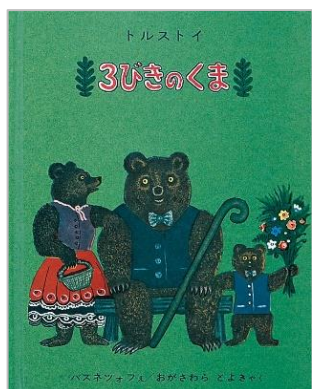
青木 久子／訳 徳間書店



サムが遊ぼうとしているとお母さんの呼ぶ声がします。サムは「ちょっと まって」と答えて積木を並べ「ぎょうれつぎょうれつ」。積木がなくなると次は本、おもちゃ、くつ…。どんな時も遊びたい子どもの気持ちと、おおらかに受けとめるお母さんが描かれています。

3びきのくま

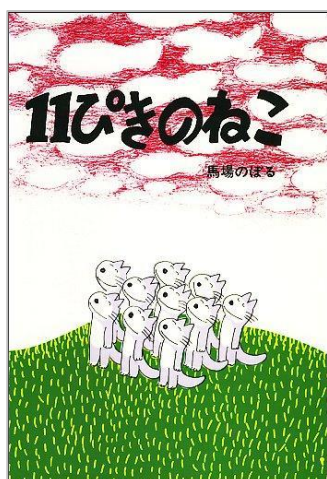
トルストイ／ぶん バスネツォフ／え
おがさわら とよき／やく 福音館書店



森で迷った女の子が入り込んだのは、大きいお父さん、中くらいのおかあさん、小さなこどもが住むくまの家。3匹が出かけている間に女の子はスープを飲んだりベッドで眠ったりします。大きい、中くらい、小さい、トリズミカルにお話が進む絵本です。

11ぴきのねこ

馬場 のぼる／著 こぐま社



11ぴきのねこはいつもはらぺこ、小さい魚を分けるのも大変です。そこでじいさんねこに言われ、大きな魚を求めて海にいきます。なんとか大きな魚を捕まえることができるのですが、ねこたちはお腹がすいています。無事に陸まで持って帰れるでしょうか。

せんたくかあちゃん

さとう わきこ／さく・え 福音館書店



せんたくの大好きなかあちゃんは、なんでもごしごし洗います。ねこにいぬに子どもたち、全部洗って干しているとかみなりさまがやってきますが、かあちゃんは、かみなりさまもごしごし洗ってしまいます。かあちゃんの豪快さが気持ちよい元気になる一冊です。

だるまちゃんとてんぐちゃん

加古 里子／さく・え 福音館書店



お友だちのてんぐちゃんの持っているうちわがほしいだるまちゃん。お父さんは、だるまちゃんの願いをかなえようと家中のうちわを探しますが、ちょっと違います。だるまちゃんはいいことを思いつき、ぴったりのものを見つけました。でも、今度はてんぐちゃんの…。

ちいさなヒッポ

マーシャ＝ブラウン／さく

うちだ りさこ／やく 偕成社

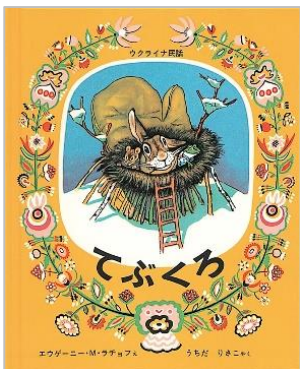


赤ちゃんかばのヒッポはいつもお母さんの近くにいます。ある日、お母さんからカバの言葉を教わる日が来ました。「グアオ」が大切と言われたヒッポはいろんな場面で「グアオ」と鳴きます。カバの親子を通して、自然の厳しさや親子のやさしさを感じる絵本です。

てぶくろ —ウクライナ民話—

エウゲーニー・M・ラチョフ／え

うちだ りさこ／やく 福音館書店



おじいさんは、てぶくろを片方落としてしまいました。そのてぶくろを見つけた動物たちが、「ここでくらすことにするわ」「わたしもいれて」「ぼくもいれて」とみんなで暮らしていました。てぶくろがパンパンになったとき、おじいさんが戻ってきて…。

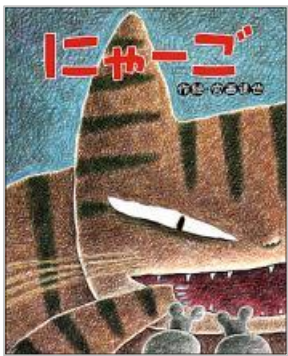
どろんこハリー

ジーン・ジオン／ぶん マーガレット・ブロイ・グレアム／え
わたなべ しげお／やく 福音館書店



ハリーは、黒いぶちのある白い犬です。たくさん遊んでどろんこになり、白いぶちのある黒い犬になってしまいました。家に帰ってもハリーだとわかってもらえず、得意の芸を一生懸命にみせますが…。子どもにとっては、ハリーが分身のように思えることでしょう。

にゃーご



宮西 達也／作・絵 鈴木出版

「ねこは怖くて恐ろしいから気をつけなさい」という学校の先生の話聞いていなかった子ねずみたちの前に、大きなねこが現れます。ところが子ねずみたちは「いっしょに、ももを取りに行かない？」とねこを誘って…。純情な子ねずみたちのおはなしです。

ねずみのすもう



大川 悦生／作 梅田 俊作／絵 ポプラ社

二匹のねずみが、切り株の土俵で、「でんかしよ、でんかしよ」とすもうをとっていました。じいさまとばあさまは、負けてばかりのやせたねずみにおもちをついてやり、おもちを食べたねずみは強くなりました。さて、強くなった後、勝つことはできるのでしょうか。

ハンダのびっくりプレゼント

アイリーン・ブラウン／作 福本 友美子／訳

光村教育図書



ハンダはおいしいそうなくだものを7つ、頭のカゴに載せて友達のアケヨのもとに向かいます。その途中、野生の動物たちがアケヨのかごのくだものをひとつ、またひとつと食べてしまいます。ハンダのプレゼントはどうになってしまうのでしょうか？

ぼくはあるいたまっすぐまっすぐ

マーガレット・ワイズ・ブラウン／作

坪井 郁美／ぶん 林 明子／え ペンギン社



おばあちゃんから電話がかかってきて、おばあちゃんのおうちに行くことになったぼく。道で拾ったおばあちゃんへのおみやげを持ち、「おばあちゃんのおうちはここかな？」と確認しながらまっすぐ歩きます。子どもたちは「ぼく」になりきって読むことでしょう。

まあちゃんのながいかみ

たかどの ほうこ／さく 福音館書店



今は短いおっぱ頭だけれど、髪を長くのばしたいまあちゃん。「そのながいことったらね…」橋の上からおさげをたらして魚を釣ったり、おさげをロープにして牛をつかまえたりなどなど…。まあちゃんの発想に、子どもたちが目を輝かせて喜ぶ一冊です。

ラチとらいおん

マレーク・ベロニカ／ぶん・え

とくなが やすもと／やく 福音館書店



世界中でいちばん弱虫な男の子のラチ。そんなラチの前に、赤い小さなライオンが現れます。そのライオンの特訓を受けて、ラチは強い男の子へ変わっていきます。「もっと強くなりたい」「成長したい」という子どもの気持ちを受け止め、励ましてくれる絵本です。

わゴムはどのくらいのびるかしら？

マイク・サーラー／ぶん ジェリー・ジョイナー／え

きしだ えりこ／やく ほるぷ出版



ある日、ぼうやはわゴムがどのくらいのびるか、ためしてみることにしました。部屋から外へ、バスで、汽車で、飛行機で、わゴムは、どんどん、どんどん、どんどんのびて…ついに宇宙まで。想像力をかきたてる、楽しみいっぱいの絵本です。

5歳からの絵本

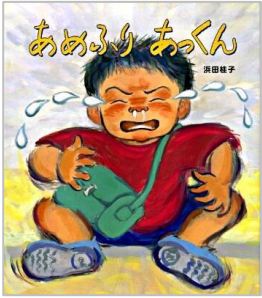
このころになると、子どもはお話の世界にどんどん入っていくようになります。

主人公は、人、動物、乗り物などさまざまですが、子どもはその主人公になりきって、はらはらしたり、怒ったり、笑ったり、喜んだりして、お話を楽しむのです。

でも、ここではまだ、主人公が保護される立場にあって、自ら外に飛び出していくようなものはあまりありません。まだまだ、お母さんお父さんにつながってきたいのでしょう。

あめふりあっくん

浜田 桂子／著 佼成出版社



おひさま保育園の朝、あっくんは「いやだよう。ママがいっちゃったよう」と涙が止まりません。そんなあっくんを思い思いに元気づける保育園のお友だち。そのうち、雨が降ってきて、雨とあっくんの涙との競争です。みんながあっくんを応援すると…。

うんちしたのはだれよ！

ヴェルナー・ホルツヴァルト／文 ヴォルフ・エールブルッフ／絵

関口 裕昭／訳 偕成社



ある日のこと、もぐらくんは頭にうんちをされてしまいました。そこで「ねえ、きみ、ぼくのあたまにうんちおとさなかった？」とハトやウマ、ウサギやヤギなどに聞いて回ります。さて、もぐらくんの頭にうんちをしたのは誰なのでしょうか？最後まで目が離せません。

王さまと九人のきょうだい —中国の民話—

君島 久子／訳 赤羽 末吉／絵 岩波書店



9人兄弟の名前は「ちからもち」「くいしんぼう」「はらいっぱい」「ぶってくれ」「ながすね」「さむがりや」「あつがりや」「切ってくれ」「みずくぐり」。次から次へと出される王さまの難題に、9人兄弟がどんどんテンポよく答えていく、中国の少数民族の昔ばなしです。

おおかみと七ひきのこやぎ ーグリム童話ー

グリム／原作 フェリクス・ホフマン／え
せた ていじ／やく 福音館書店



ある日、おかあさんは「おおかみにくれぐれも気をつけるように」と言うと、食べ物を探しに出かけました。ところがまもなく、おおかみがやってきて…。子どもたちは、ドキドキしながら子ヤギの気持ちになってお話に入り込んでいきます。

おおきなきがほしい

佐藤 さとる／ぶん 村上 勉／え 偕成社

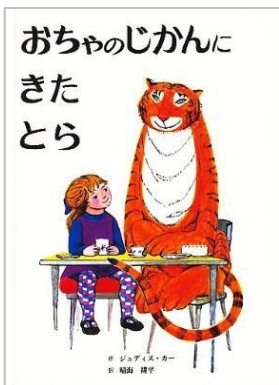


「おおきなおおきな木があるといいな。」窓から顔をだして、かおるがいました。「もしもお庭に大きな木があったら、はしごをかけて、てっぺんまで登って、見晴らし台を作るんだ。…」かおるの夢は広がります…。子どもの想像が色彩豊かに描かれます。

おちやのじかんにきたとら

ジュディス・カー／作 晴海 耕平／訳 童話館出版

ソフィーとお母さんがお茶にしようとしたその時、玄関のベルが鳴りました。お茶を一緒にしたトラは、お茶もパンケーキもサンドイッチも、冷蔵庫の中のものも、水道の水も全部ぜんぶ食べてしまいます。何もなくなってしまった女の子の一家は、どうしたでしょう。



お月さまってどんなあじ？

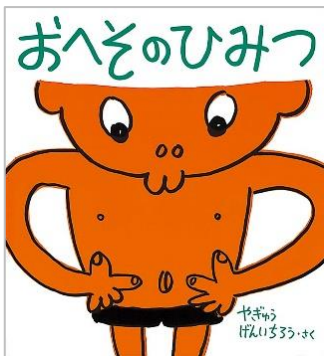


マイケル・グレイニエツ／絵と文

いずみ ちほこ／訳 らんか社

「お月さまってどんなあじなんだろう」と思うどうぶつたち。ある日、カメが一番高い山に登ってお月さまをかじってみようとしますが届きません。そこで、カメはゾウを、ゾウはキリンを呼んで、少しずつ仲間が増えていきます。お月さまに届くのでしょうか？

おへそのひみつ



やぎゅう げんいちろう／さく 福音館書店

おへそは、おなかのおまけ？おへそにさわるとおなかがいたくなる？おへそっていったいなんだろう？…。みんなの体にあるおへそについての疑問に答えてくれる1冊です。お母さんのおなかの中にいた証拠であるおへそのひみつがよくわかります。

かいじゅうたちのいるところ



モーリス・センダック／さく

じんぐう てるお／やく 富山房

ある晩マックスは狼の衣装を着て大暴れ。お母さんに叱られて夕飯抜きで寝室に放り込まれます。すると寝室は森になり、ボートに乗って着いたところは「かいじゅうたちのいるところ」。マックスはかいじゅうたちの王さまになって大暴れします。

かにむかし 日本むかしばなし

木下 順二／作 清水 崑／絵 岩波書店



むかしむかし、かには柿の種をまいて「はよう芽をだせ、かきのたね」と熱心に育てたので、木は大きくなりたくさんの実をつけました。それを見ていたさるは、いじわるをしてかにをつぶしてしまいます。子がにたちは、仲間を集めたのちに、さるはどうなるでしょうか。

きょうはみんなでクマがりだ

マイケル・ローゼン／再話 ヘレン・オクセンバリー／絵

山口 文生／訳 評論社



「きょうはみんなでクマがりだ。つかまえるのはでかいやつ。そらはすっかりはれているしこわくなんかあるものか！」とクマがりに出かけます。本当にクマがりをするのでしょうか。場面に合ったユニークな擬声音とリズム感あふれる言葉運びがとても楽しい絵本です。

くんちゃんのだいりょこう

ドロシー・マリノ／文・絵 石井 桃子／訳 岩波書店



子ぐまのくんちゃんは、鳥たちが飛んでいく南の国へ行きたくなりました。南の国へ行くためにはいろいろなものを持っていかなくてははいけません。くんちゃんの子どものらしい発想にほっこりします。さて、くんちゃんは、南の国に行くことができるのでしょうか。

こすずめのぼうけん

ルース・エインズワース／作 石井 桃子／訳

堀内 誠一／画 福音館書店



飛び方を教えてもらったこすずめは、「ぼくひとりで、せかいじゅうをみてこられる」といって飛び立ちます。でも、羽が痛くなってしまい休むところをさがしますが、他の鳥たちは貸してくれません。こすずめが地面を歩いていると向こうからやってくる鳥の姿が見えて…。

これはのみのぴこ

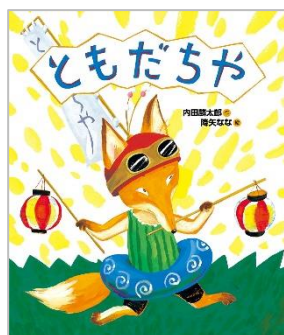
谷川 俊太郎／作 和田 誠／絵 サンリード



ことばをつみあげて、おはなしを作っていく言葉遊び絵本。「これはのみのぴこ これはのみのぴこのすんでいるねこのごえもん これはのみのぴこのすんでいるねこのごえもんのしっぽふんずけたあきらくん …」リズムのある言葉を読むのが楽しい絵本です。

ともだちや

内田 麟太郎／作 降矢 なな／絵 偕成社



「えー、ともだちやです。ともだちはいませんか」と、のぼりを持ったキツネが、クマやオオカミに声をかけて一緒にイチゴを食べたり、遊んだりします。1時間100円、2時間200円の「ともだちや」キツネでしたが、本当の「ともだち」は作れたのでしょうか。

はじめてのおつかい

筒井 頼子／さく 林 明子／え 福音館書店



「ひとりでおつかいできるかしら」5つになったみいちゃんは、お母さんに言われます。牛乳を買うために百円玉を2枚握りしめ、みいちゃんは「はじめてのおつかい」に出かけます。はじめてのドキドキや新鮮さをみいちゃんと一緒に味わえる一冊です。

ピーターのいす

エズラ＝ジャック＝キーツ／作・画

木島 始／訳 福音館書店



生まれたての赤ちゃんがやってきて、ピーターの家は一変。自分のだった家具はどんどん赤ちゃんのものになっていきます。そこでピーターは自分の椅子とともに家出をすることに…。兄として成長するピーターの様子や、それを見守る親の温かさが伝わってくるお話です。

ひとまねこざる

H. A. レイ／文・絵 光吉 夏弥／訳 岩波書店

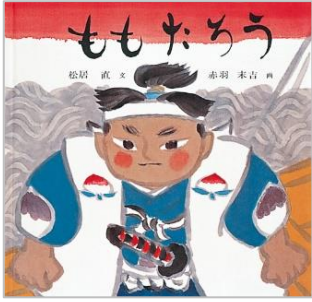


しりたがりやのこざる「じょーじ」は、動物園の外のことが気になってこっそり町に出ます。町にはめずらしくておもしろいものがたくさん。そこでジョージはレストランに潜りこんだり、部屋中をペンキまみれにしたりとやりたい放題！一体どうなるのでしょうか？

ももたろう

まつい ただし／ぶん あかば すえきち／え

福音館書店



「むかし、あるところに、」から始まるおなじみの日本の昔話の絵本です。水彩で描かれた味わい深い日本画風の絵によって、桃太郎が犬、猿、きじと出会い、鬼退治に行く様子が描かれています。おはなしのリズムも独特なため、言葉も楽しめる1冊にもなっています。

ロッタちゃんとしてんしゃ

リンドグレン／さく

ヴィークランド／え やまむろ しずか／やく

偕成社



3人兄弟の末っ子ロッタは、お兄ちゃんたちと同じように自転車に乗りたくてたまりません。5歳の誕生日に自転車が貰えなかったロッタは、お隣のベルイさんの自転車にこっそり乗ってみますが…。子どもの持つ興味や好奇心をありありと感じる絵本です。

索引

ア行

あおくんときいろちゃん	・・・ 8
あめのひのえんそく	・・・ 16
あめふりあっくん	・・・ 24
うしろにいるのだあれ	・・・ 8
うんちしたのはだれよ！	・・・ 24
王さまと九人のきょうだい	・・・ 24
おおかみと七ひきのこやぎ	・・・ 25
おおきなかぶ	・・・ 8
おおきなきがほしい	・・・ 25
おだんごぱん	・・・ 16
おちやのじかんにきたとら	・・・ 25
お月さまってどんなあじ？	・・・ 26
おでかけのまえに	・・・ 9
おへそのひみつ	・・・ 26
おべんとう	・・・ 9
おまたせクッキー	・・・ 16
おむすびころりん	・・・ 9

カ行

かいじゅうたちのいるところ	・・・ 26
かにむかし	・・・ 27
からすのパンやさん	・・・ 17

キャベツくん	・・・	17
きょうはみんなでクマがりだ	・・・	27
ぎょうれつぎょうれつ	・・・	17
ぐりとぐら	・・・	10
くれよんのくろくん	・・・	10
くんちゃんのだいいりょこう	・・・	27
こすずめのぼうけん	・・・	28
コッケモーモー！	・・・	10
これはのみのぴこ	・・・	28

サ行

3びきのくま	・・・	18
11ぴきのねこ	・・・	18
14ひきのあさごはん	・・・	11
せんたくかあちゃん	・・・	18

タ行

だるまちゃんをとてんぐちゃん	・・・	19
ちいさなヒッポ	・・・	19
てぶくろ	・・・	19
どうぞのいす	・・・	11
どしゃぶり	・・・	11
ともだちや	・・・	28
とりかえっこ	・・・	12
どろだんご	・・・	12
どろんこハリー	・・・	20

ナ行

なにをたべてきたの？	・・・ 1 2
にゃーご	・・・ 2 0
ねずみのすもう	・・・ 2 0

ハ行

はじめてのおつかい	・・・ 2 9
はなをくんくん	・・・ 1 3
ハンダのびっくりプレゼント	・・・ 2 1
ピーターのいす	・・・ 2 9
ひとまねこざる	・・・ 2 9
ピン・ポン・バス	・・・ 1 3
ぼくはあるいたまっすぐまっすぐ	・・・ 2 1

マ行

まあちゃんのながいかみ	・・・ 2 1
ももたろう	・・・ 3 0
もりのなか	・・・ 1 3

ヤ行～

ゆきのひのころわん	・・・ 1 4
ラチとらいおん	・・・ 2 2
ルラルさんのにわ	・・・ 1 4
ロッタちゃんとしてんしゃ	・・・ 3 0
わゴムはどのくらいのびるかしら？	・・・ 2 2

絵本だ〜い好き 3・4・5歳の絵本

編集・発行 坂戸市立図書館

令和4年 3月 31日